

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

蓮田市

市町村名 (市町村コード)	蓮田市 (112381)
地域名 (地域内農業集落名)	駒崎地区 (駒崎東部、駒崎中部、駒崎西部)
協議の結果を取りまとめた年月日	令和6年11月7日 (第1回)

注1:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

注2:「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

本地域は、市の中央から北部に位置する綾瀬川沿いの平坦部に連坦する農地69.3haであり、そのうち、50.1haが田である。田は、土地改良事業が平成6、7年度に行われ、現在では駒崎転作組合が行う、ブロックローテーションによる集団輪作体系が確立されている。基盤整備が行われていない地域では、作業効率が悪く新たな新たな担い手が現れない。

域計画策定に向けたアンケート調査の結果、今後の農業経営の意向として拡大が2%、縮小が28%、現状維持が68%となっており、高齢化や後継者不足により、今後も自己所有農地の耕作を駒崎転作組合に依頼する要望が多い。

対して、駒崎転作組合としても、組合員の高齢化や後継者不足により、将来的な組合員の減少が見込まれる。

地域で、生産組合を組織し、担い手として一部農地の集積を行っているが、農業従事者の高齢化に伴い離農者が年々増加している。そのため、長期的な担い手確保、農地の集約・集積を進める。

(2) 地域における農業の将来の在り方

地域計画策定に向けたアンケート調査の結果、今後の農業経営の意向として現状維持が68%いることから、駒崎転作組合のブロックローテーション集団輪作体系を継続していく。

農業の生産効率の向上を図るため、基盤整備未実施地区の用排水路、道路及び区画の拡大化等について、基盤整備を進める。

作物は、小麦、大豆、米等の集団輪作を行い、大豆と小麦の2毛作により、収益力強化を図る。生産面は、市や農協から補助を受けて購入した組合所有の農業機械を使用し効率的な農作業を行う。また、管理面では、病害虫防除のための薬剤散布はラジコンヘリやドローンを使用し集団的に行う。

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	69.3 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	69.3 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】	- ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方(範囲は、別添地図のとおり)

農業振興地域内農用地区域の水田とする。

注:区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1)農用地の集積、集約化の方針
規模拡大を目指す農業者に、農地中間管理事業の活用による農地の集積・集約化を図ることを基本としつつ、自作を含め、多様な担い手による農用地の有効利用を目指す。
(2)農地中間管理機構の活用方針
地域全体の農地を農地中間管理に貸し付けることを中心に、段階的に担い手への農地の集積・集約化を進める。
(3)基盤整備事業への取組方針
農業の生産効率の向上を図るため、用排水路、道路及び区画の拡大化等について、基盤整備を進める。
(4)多様な経営体の確保・育成の取組方針
地域内外から、多様な経営体を募り、意向を踏まえながら担い手として育成していくため、関係機関と連携し相談から定着まで切れ目なく取り組んでいく。
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針
駒崎転作組合の事務局を南彩農業協同組合中部営農経済センターが担っている。また、(株)スカイテックがラジコンヘリを使用した病虫害防除のための薬剤散布を行っている。

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください)

☐ ①鳥獣被害防止対策	☒ ②有機・減農薬・減肥料	☐ ③スマート農業	☐ ④畑地化・輸出等	☐ ⑤果樹等
☐ ⑥燃料・資源作物等	☒ ⑦保全・管理等	☐ ⑧農業用施設	☐ ⑨耕畜連携等	☐ ⑩その他

【選択した上記の取組方針】

- ・ラジコンヘリやドローンを使用することで、集団的に農薬散布を行い、その結果、農薬使用量が少なくなる。
- ・多面的機能支払交付金活動組織である駒崎環境保全組合を中心に、地域で農地や農業用排水路の保全・管理等が行われている。